

**これからの時代に求められる資質・能力を育むための
カリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究
〈文部科学省指定(平成29・30年度)委託事業〉**

より教育効果を高める時程の研究 ～10分間のモジュール授業を通して～

宇治田原町教育委員会

1 はじめに

- カリキュラム・マネジメントの目的

2 研究体制

3 研究構想

4 研究概要

5 成果と課題

本町におけるカリキュラム・マネジメント研究の目的

新学習指導要領の改訂に伴う授業時数の増加
(3年以上の学年: 授業時数週1時間、年間35時間)



児童の体力、気力面への配慮

放課後の生活への影響

健康面

さまざまな面を熟慮した組み替えが必要

研究テーマ

**より教育効果を高める時程の研究
～10分間のモジュール授業を通して～**

2 研究体制

(1) 検討会議

より教育効果の高いカリキュラムを創造するために、様々な視点からの意見を求め、より精度の高い研究成果を追究する。



(2)「RPC(研究推進会議)」及び「合同RPC」 (Research Promotion Conference)

研究目標の具現化のために、校内組織の中から関連部署の職員を持って構成する。

- ア 校長
- イ 教頭
- ウ 教務主任
- エ 研究主任
- オ カリキュラム・マネージャー
- カ 国語部主任
- キ 外国語教育部主任

研究の3本柱

(1) カリキュラム・マネジメント研究

より教育効果の高い時程の在り方についての研究

(2) 外国語活動に係る研究

外国語の効果的な指導の在り方についての研究

(3) 国語科に係る研究

モジュール枠を活用した新出漢字指導や漢字の習熟、文法指導などの指導方法に係る研究

3 研究構想 ～6つのプラン～

(1) プランA: 7校時目に授業枠を設定

児童の気力面、体力面の不安

(2) プランB: 水曜5校時授業を6校時授業に

児童の課外活動への影響

職員会議等の時間確保が困難

(3) プランC : 長期休業を短縮

登下校時の暑さ対策

自立的、継続的な学習機会の減少

(4) プランD: 土曜日に授業を実施

児童の課外活動への影響

(5) プランE: 45分を3分割するモジュール授業

週5日間の生活リズムに違いが生じる

3 研究構想 ～6つのプラン～

(6) プランF (45分を5分割するモジュール授業)

$$45分 \div 5日 = 9分$$

$$9分 + 1分 = \mathbf{10分間}の授業枠$$

週5日間毎日モジュール授業を行う。

10分間モジュール授業

	月	火	水	木	金
朝の会・朝学習	15	15	15	15	15
1					
5分休憩	5	5	5	5	5
2					
中間休み	20	20	20	20	20
3					
5分休憩	5	5	5	5	5
モジュール授業	10	10	10	10	10
5分休憩	5	5	5	5	5
4					
給食	45	45	45	45	45
昼休み	20	20	20	20	20
清掃	15	15		15	15
5					
6					

国語科

4 研究概要

(1) カリキュラム・マネジメント研究

「宇治田原スタイル」のメリット

児童の学校滞在時間を増やさない

平成29年度校時表

	月	火	水	木	金
朝の会・朝学習	20	20	20	20	20
1					
5分休憩	5	5	5	5	5
2					
中間休み	25	25	25	25	25
3					
5分休憩	5	5	5	5	5
4					
給食	45	45	45	45	45
昼休み	20	20	20	20	20
清掃	20	20		20	20
5					
6					



平成30年度校時表

	月	火	水	木	金
朝の会・朝学習	15	15	15	15	15
1					
5分休憩	5	5	5	5	5
2					
中間休み	20	20	20	20	20
3					
5分休憩	5	5	5	5	5
モジュール授業	10	10	10	10	10
5分休憩	5	5	5	5	5
4					
給食	45	45	45	45	45
昼休み	20	20	20	20	20
清掃	15	15		15	15
5					
6					

4 研究概要

(1) カリキュラム・マネジメント研究

「宇治田原スタイル」のメリット

全校一斉指導

生活リズムの安定と
低学年授業枠の減少

授業時数

	月	火	水	木	金
1年	4	5	5	5	5
2年	5	5	5	5	5
3年	5	6	5	5	6
4年	6	6	5	6	6
5年	6	6	5	6	6
6年	6	6	5	6	6

4 研究概要

(1) カリキュラム・マネジメント研究

「宇治田原スタイル」のメリット

比較的短時間で指導可能な新出漢字の指導

10分間で1～2文字指導

児童に過度な負担をかけない

指導効率の向上

指導慣れしている国語科で教員の負担軽減

現在通常実施している時程

	月	火	水	木	金
朝の会・朝学習	15	15	15	15	15
1					
5分休憩	5	5	5	5	5
2					
5分休憩	5	5	5	5	5
モジュール授業	10	10	10	10	10
中間休み	20	20	20	20	20
3					
5分休憩	5	5	5	5	5
4					
給食	45	45	45	45	45
昼休み	20	20	20	20	20
清掃	15	15		15	15
5					
6					

Dパターン

4つのパターンを設定し、
研究実践を通して効果検証

- ア Aパターン
1・2校時の間
- イ Bパターン
3・4校時の間
- ウ Cパターン
掃除と5校時の間
- エ Dパターン
2校時終了後

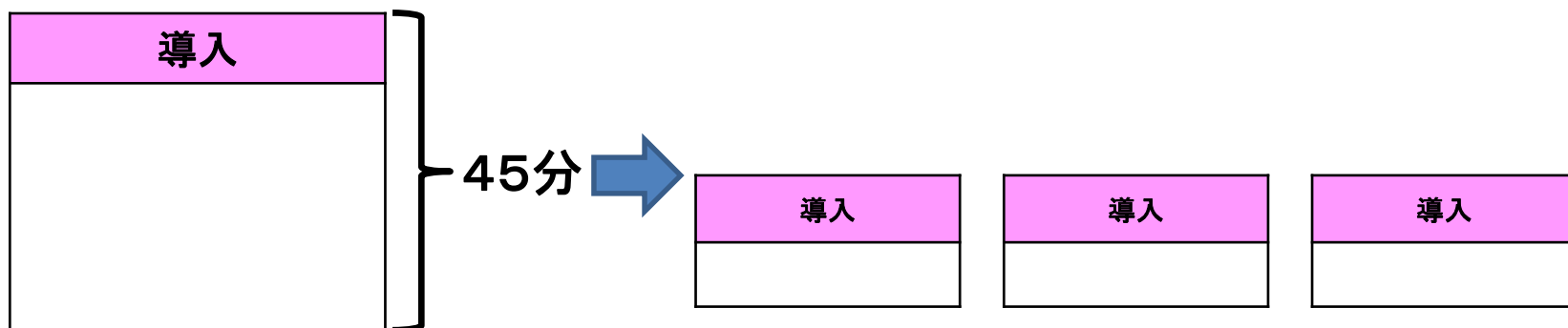
(2) 外国語科・外国語活動に係る研究

45分を1単位とした授業枠で計画

平成30年度より先行実施

10分～15分の帯取り

時間的な余裕がない

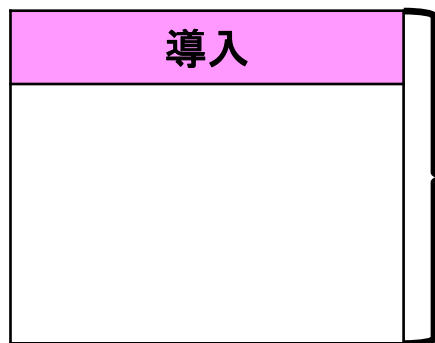


指導効率が下がる

(2) 外国語科・外国語活動に係る研究

45分を1単位とした授業枠で計画

平成30年度より先行実施



展開の幅が大きい

大きく授業展開を工夫できる

教員も自信を持って指導できる

コミュニケーション活動を生かした学習

絵本を使ったイントロダクション



対話に発展→アウトプット→話す力の向上

コミュニケーション活動を生かした学習

Small Talk (スモールトーク) による会話慣れ



「型にはまった文型を暗記して話す表現」から

「思考し、判断して話す表現」へ

(3) 国語科に係る研究

モジュール授業

「新出漢字の学習」「漢字の習熟」「文法の習熟」

モジュール授業回数

週5回 × 35週 = 175回 (基本回数)

宇治田原スタンダード

- 1 読みや使い方の音読（モジュールプリントを活用）
- 2 ポイント指導（「はね」や「はらい」など） ◎端的な説明で
- 3 空書き2回（筆順確認→練習2回） ◎2本指で大きく
- 4 指書き30秒 ◎指書きシートを使って大きく
- 5 鉛筆書き ◎ていねいに◎早くできたら「+1」
◎それもできたら、さらに指書き
- 6 たしかめ ◎練習した字を指書きシートで隠して確かめを

モジュールプリントの活用

「書きまじょう」

<読み方>	
訓	音
	シン
9画	

<使い方>

信号を守る。

漢字学習 (/)

四年 組 ()

()

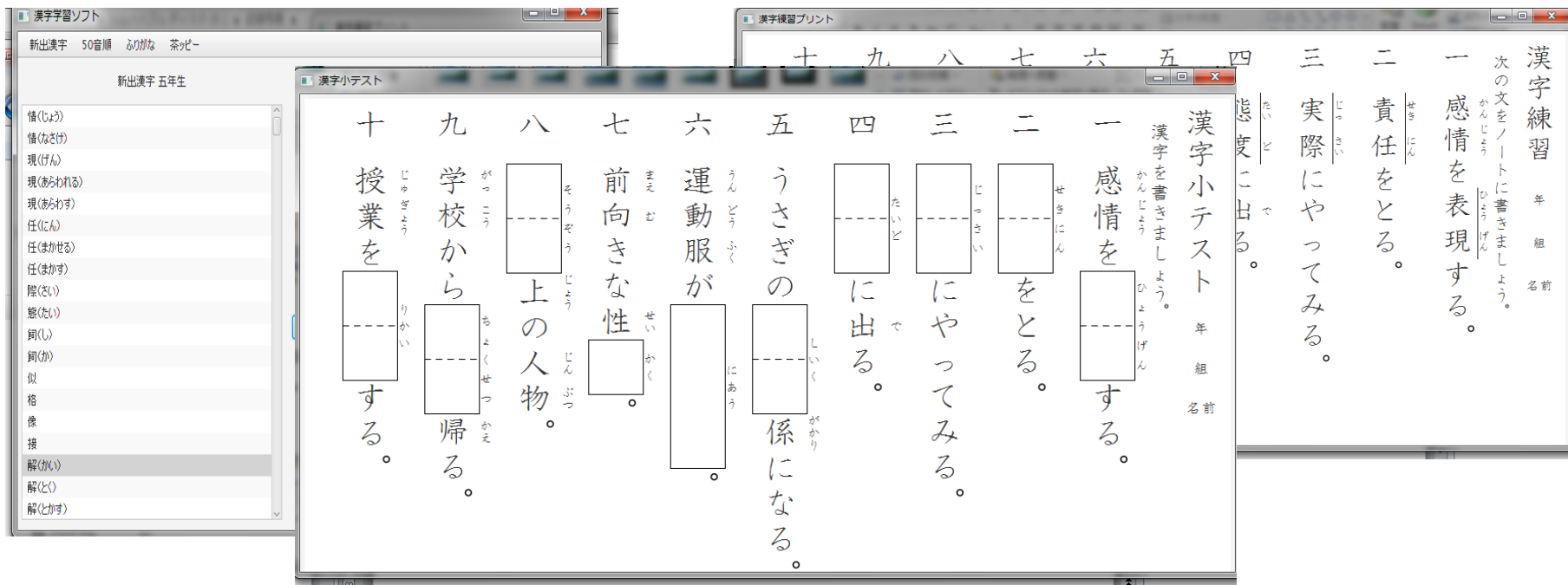
1

<+1>

漢字の習熟と家庭学習の充実

6～8文字の漢字を指導後→「漢字の習熟」

(内容例) 言葉集め 文作り



新出漢字の進捗状況
児童の学習状況

に 応 じ て 各 学 年 で 作 成

1学期の配当漢字が多い



1学期当初の授業の進度や習熟の枠に余裕がない

次年度の新出漢字の先取り指導

今年度は比較的余裕を持って指導

漢字の習熟の拡充

スムーズな単元指導

画数の多い漢字を10分間で指導する時間不足

漢字の画数による組み合わせの工夫

弾力的なマネジメント

習熟

より高い学習効果を期待

新出漢字が少なく、漢字の学習そのものが
2学期から始まる第1学年

「ひらがな」「カタカナ」の習熟指導やことば
の世界を広げる学習を実施

4 成果と課題

成果

- ・児童の学校滞在時間の維持
- ・全校児童の生活リズムの安定化
- ・統一指導方式「宇治田原スタンダード」
- ・児童の学習意欲の向上
- ・国語科指導の充実
- ・指導方法に合わせたソフト開発
- ・外国語科、外国語活動の充実
- ・教員の勤務状態の安定化

課題

- ・授業時数の確保の問題